

令和 2 年 度

学校基本調査速報（宮城県）の概要

－ 令和 2 年 5 月 1 日 現在 －

調査結果の概要

1 学校（園）数，学級数，在学者数及び教員数の増減（対前年度）

学校（園）数等を前年度と比較した結果は以下のとおりである。増減の詳細は表 1 のとおり，学校（園）の新設・廃止の状況は表 2 のとおりである。

（1）学校（園）数

増加：高等学校（全日制） 1 校，幼保連携型認定こども園 13 園，専修学校 5 校

減少：小学校 2 校，幼稚園 6 園，各種学校 1 校

（2）学級数

増加：中学校 30 学級，義務教育学校 2 学級，幼保連携型認定こども園 51 学級

減少：小学校 35 学級，中等教育学校 1 学級，特別支援学校 7 学級，幼稚園 44 学級

（3）在学者数

増加：中学校 49 人，義務教育学校 88 人，幼保連携型認定こども園 1,506 人，
専修学校 700 人

減少：小学校 1,544 人，高等学校（全日制・定時制）1,646 人，中等教育学校 41 人，
特別支援学校 12 人，幼稚園 1,302 人，各種学校 263 人

（4）教員数（本務者）

増加：中学校 24 人，義務教育学校 2 人，幼保連携型認定こども園 310 人，専修学校 2 人

減少：小学校 32 人，高等学校（全日制・定時制）26 人，中等教育学校 3 人，
特別支援学校 26 人，幼稚園 29 人，各種学校 16 人

表1 学校(園)数, 学級数, 在学者数及び教員数

(単位:校, 学級, 人)

区分	学校数			学級数			在学者数			教員数(本務者)								
	R2	R1	対前年度増減数	R2	R1	対前年度増減数	R2	R1	対前年度増減数	R2	R1	対前年度増減数						
小学校	381	383	△2	4,957	4,992	△35	114,086	115,630	△1,544	7,881	7,913	△32						
中学校	207	207	-	2,303	2,273	30	58,381	58,332	49	4,875	4,851	24						
義務教育学校	1	1	-	15	13	2	298	210	88	32	30	2						
高等学校	全日制	88	87	1	…	…	55,793	57,399	△1,606	4,251	4,274	△23						
	うち定時制を併置	6	6	-	…	…												
	うち通信制を併置	2	2	-	…	…												
	定時制	7	7	-	…	…							1,364	1,404	△40	285	288	△3
	通信制	2	2	-	…	…							(4,610)	(3,771)	(839)	(121)	(107)	(14)
中等教育学校	2	2	-	17	18	△1	903	944	△41	86	89	△3						
特別支援学校	28	28	-	656	663	△7	2,658	2,670	△12	1,650	1,676	△26						
幼稚園	232	238	△6	1,180	1,224	△44	25,704	27,006	△1,302	2,151	2,180	△29						
幼保連携型認定こども園	61	48	13	270	219	51	7,993	6,487	1,506	1,326	1,016	310						
専修学校	70	65	5	…	…	…	16,763	16,063	700	960	958	2						
各種学校	22	23	△1	…	…	…	1,621	1,884	△263	113	129	△16						
計	1,101	1,091	10	9,398	9,402	△4	285,564	288,029	△2,465	23,610	23,404	206						

注1 …印は調査しない事項

注2 中等教育学校の学級数は、前期課程分のみ

注3 高等学校通信制の在学者数・教員数(独立・併置含む)については外数で、計には含めていない

注4 学校数の増減は、新設・廃止によるもの

表2 令和2年度新設・廃止校の状況

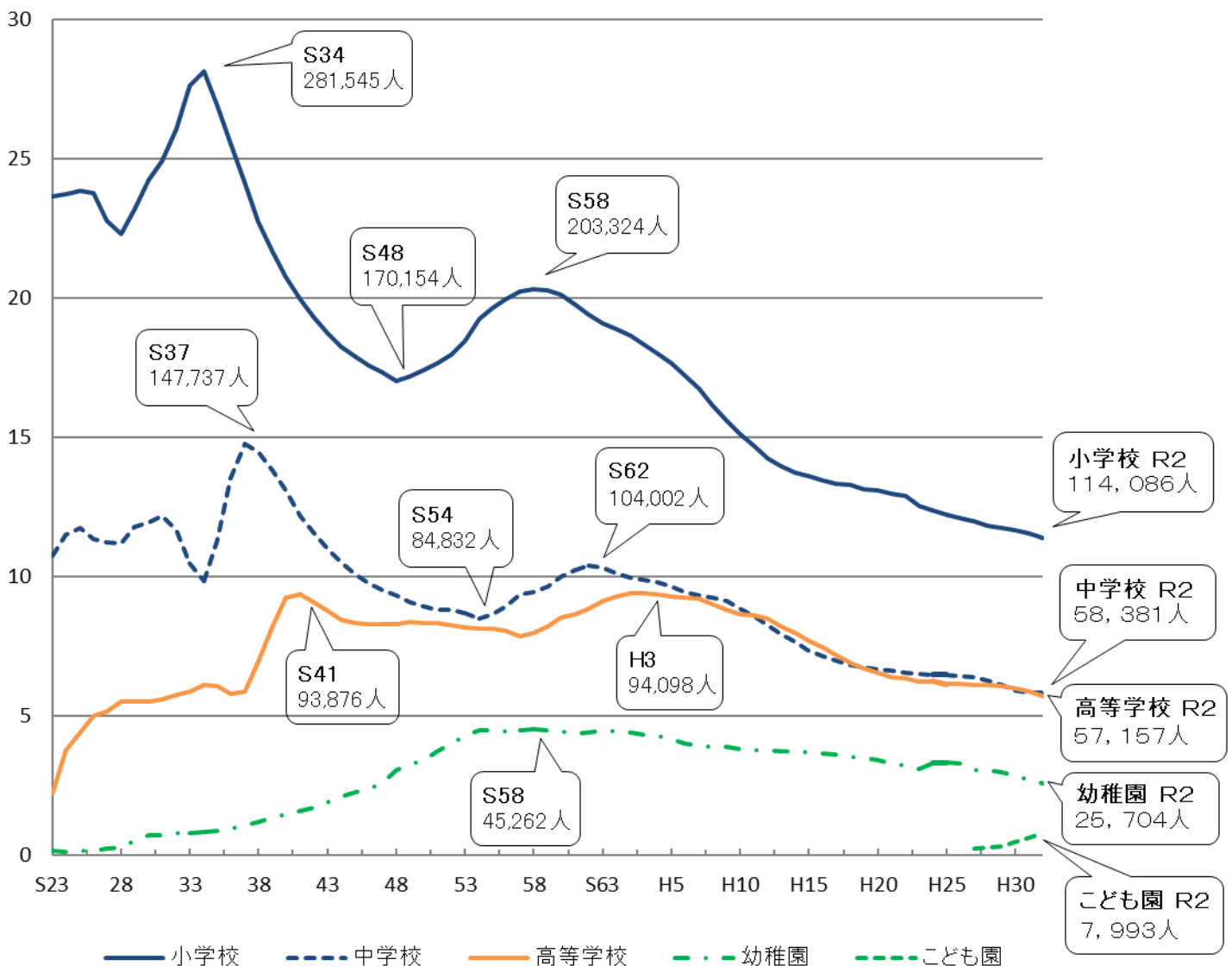
	[新設]	[廃止]
小学校	仙台市立荒井小学校	仙台市立作並小学校 仙台市立作並小学校新川分校 仙台市立大倉小学校
高等学校等	日本ウェルネス宮城高等学校	
幼稚園		大郷町立大郷幼稚園 登米市立つやま幼稚園 聖愛幼稚園 東盛幼稚園 泉の杜幼稚園 岩切東光第二幼稚園 → 幼保連携型認定こども園へ移行 → 幼保連携型認定こども園へ移行 → 幼保連携型認定こども園へ移行
認定こども園 幼保連携型	石巻市立北上こども園 つやま杉の子こども園 ほなみの杜こども園 幼保連携型認定こども園すくすくゆめの郷こども園 さゆりこども園 ナザレト愛児園 岩切東光第二幼稚園・ひかり保育園 認定こども園東盛マイत्री園・東盛幼稚園	太白すぎのこども園 バンビの森こども園 幼保連携型認定こども園荒井マーヤこども園 幼保連携型認定こども園高森サーラこども園 泉の杜幼稚園
専修学校	仙台デザイン&テクノロジー専門学校 仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校 東北芸術高等専修学校 東北愛犬専門学校 気仙沼リアス調理専門学校	
学各種		東北愛犬専門学院

2 在学者の推移

- 昭和 23 年度からの推移をみると、小学校は、昭和 34 年度（281,545 人）のピークから昭和 48 年度まで減少した後、昭和 58 年度まで増加傾向にあったが、その後再び減少し、今年度の児童数 114,086 人は調査以来過去最低である。
- 中学校は、昭和 37 年度（147,737 人）のピークから昭和 54 年度まで減少した後、昭和 62 年度まで増加傾向にあったが、その後再び減少し、令和元年度（58,332 人）は調査以来過去最低であった。今年度の生徒数は、前年度より 49 人増加して 58,381 人となった。
- 高等学校は、平成 3 年度（94,098 人）のピークから、平成 26 年度を除き減少が続いており、今年度は 57,157 人となった。
- 幼稚園は、昭和 58 年度（45,262 人）のピークから、増加と減少を繰り返しながら、近年は減少が続いており、今年度は 25,704 人となった。また、幼保連携型認定こども園の在園者数は、前年度より 1,506 人増加して 7,993 人となった。

図 1 学校種別在学者の推移（昭和 23 年度～令和 2 年度）

(万人)



令和3年度宮城県公立学校教員採用候補者選考第1次選考の結果について

令和2年8月19日現在（単位：人）

校種	教科等	令和3年度				平成32年度(令和2年度)			
		出願者数	欠席者数	受験者数	合格者数	出願者数	欠席者数	受験者数	合格者数
小学校		516	62	454	454	485	15	470	363
中学校	国語	47	7	40	39	46	2	44	42
	社会	138	13	125	55	128	12	116	39
	数学	78	12	66	58	92	5	87	37
	理科	45	9	36	32	46	2	44	23
	技術	1	0	1	1	5	0	5	5
	英語	85	15	70	47	79	2	77	33
	小計	394	56	338	232	396	23	373	179
中・高	保体	272	30	242	81	254	8	246	75
	音楽	43	12	31	24	37	2	35	18
	美術	24	5	19	19	34	5	29	21
	家庭	15	3	12	12	19	0	19	16
	小計	354	50	304	136	344	15	329	130
高校	国語	50	10	40	37	51	7	44	24
	公民	44	8	36	14	37	5	32	12
	地歴	81	15	66	45	65	5	60	42
	数学	83	13	70	35	91	6	85	21
	理科	89	13	76	51	98	12	86	37
	農業	9	1	8	8	13	3	10	10
	水産	1	1	0	0	3	1	2	2
	工業	31	1	30	20	30	1	29	18
	商業	17	1	16	16	30	5	25	21
	情報	17	1	16	8	19	3	16	7
	英語	46	9	37	34	63	8	55	28
	看護	2	0	2	2	2	0	2	2
	理療	募集せず				募集せず			
	福祉	7	0	7	6	9	2	7	5
小計	477	73	404	276	511	58	453	229	
養護教諭	140	13	127	39	132	9	123	29	
栄養教諭A	1	0	1	1	0	0	0	0	
栄養教諭B	22	5	17	10	26	0	26	7	
合計	1,904	259	1,645	1,148	1,894	120	1,774	937	

注1 欠席者数には適性検査不受験者及び書類不提出者を含む。

注2 合格者数には他県等現職者特別選考、宮城県元職特別選考及び前年度Cランクで注1以外の者を含む。

備考

◎ 第1次選考の選考結果は、受験者に郵送で通知済。

◎ 第2次選考の日程 面接及び集団討議：令和2年9月3日(木)～5日(土)、10日(木)～13日(日)のうち1日

会場は宮城県総合教育センター

実技試験：令和2年9月12日(土) 会場は別途本人あて通知

2020年第36回学習デジタル教材コンクール「文部科学大臣賞」受賞について

新学習指導要領では、ICTを活用した学習活動の充実が求められている。令和元年度の総合教育センター長期研修専門研究において、児童生徒がICT機器を活用して協働学習・個別学習ができることを目的に、教員向けのタブレット端末活用研修パック「+タブレ2.0」を開発した。

この研修パックが「第36回学習デジタル教材コンクール」において最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞した。

なお、このコンクールにおいて、宮城県総合教育センターが文部科学大臣賞を受賞するのは、今回で2年連続4回目である。

今後、研修パックが県内の各学校における校内研修で活用され、現在進められているGIGAスクール構想を推進し、児童生徒の情報活用能力が育成されるよう、HP上で広く公開し、研修会等を通じ普及を図っていく。

1 学習デジタル教材コンクール

(1) 主催者等 主催：公益財団法人学習情報研究センター 後援：文部科学省

(2) 事業の概要

学校教育におけるデジタル機器の活用を促進するため、教員その他の教育関係者・団体が作成したデジタル教材を募集し、表彰する事業。

デジタル機器の活用と教育の情報化の進展に貢献することを目的として、優れた作品を広く教育関係者に紹介し、相互利用できるよう情報提供している。

(3) 表彰の種類

文部科学大臣賞，学情研賞，日本児童教育振興財団賞 ほか

2 研修教材を開発した専門研究の概要

(1) 研究領域 情報教育

(2) 研究主題等 協働学習・個別学習におけるICT活用の推進

ータブレット端末活用研修パック「+タブレ2.0」の作成と活用の提言を通してー

(3) 専門研究員	亘理町立亘理中学校	教諭	佐藤 信
	利府町立利府中学校	教諭	齋藤 秀峰
	登米市立中田中学校	教諭	田口 勇介
	南三陸町立志津川中学校	教諭	後藤 祥
(4) 指導主事	情報教育班	主幹	山下 学
	情報教育班	主任主査	鈴木 裕

3 その他

(1) 表彰式は、令和2年9月22日（火）に「アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）」において開催予定。

研究主題・副題

協働学習・個別学習におけるICT活用の推進

－ 「タブレット端末活用研修パック」の作成と活用の提言を通して（1年次／2年計画） －

令和元年度 情報教育研究グループ専門研究員 巨理町立巨理中学校 佐藤 信 利府町立利府中学校 齋藤 秀峰
 登米市立中田中学校 田口 勇介 南三陸町立志津川中学校 後藤 祥
 指導主事 情報教育班 山下 学 情報教育班 鈴木 裕

研究の概要

「新学習指導要領」「第2期みやぎの教育情報化推進計画」及び「MIYAGI Style」では、教科指導においてICTを活用することが示されている。校内研修を通して、宮城県内の先生方が「協働学習」や「個別学習」におけるICT活用ができるようになることを目指すもの。

課題

「協働学習」「個別学習」においてICTを活用した授業を推進すること。

「協働学習」「個別学習」を推進する上での先生方の悩み

活用場面が分からない。何ができるか分からない。勉強する機会が無い。時間が無い。

平成27年度作成の「+タブレ」で取り扱っている内容は「一斉学習」のみで、「協働学習」「個別学習」が含まれていない。

現状

平成27年度専門研究 情報教育研究グループ作成 タブレット端末活用動画集

+タブレ

動画と研修資料で、わかりやすく解説し、一斉学習を推進

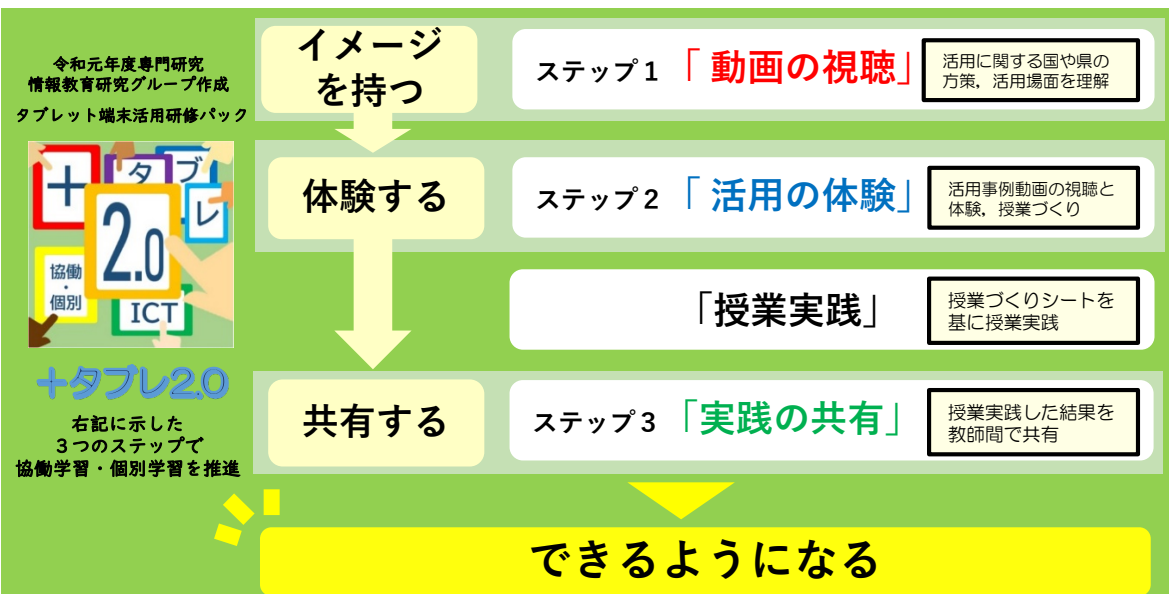
<p>一斉学習</p> <p>教員のみがICTを活用</p> <p>教員による教材の提示</p>	<p>協働学習</p> <p>グループで一台タブレット端末を活用</p> <p>発表や話し合い 協働での意見整理</p> <p>協働制作 学校の壁を越えた学習</p>	<p>個別学習</p> <p>児童生徒一人一台タブレット端末を活用</p> <p>個に応じる学習 調査活動 思考を深める学習</p> <p>表現・制作 家庭学習</p>
---	--	---

図.「学びのイノベーション事業実証研究報告書」文部科学省（平成26年4月）より作成

本県の実情に即した「協働学習」「個別学習」におけるタブレット端末活用に関する資料がない。

本県の実情に即した「協働学習」「個別学習」におけるタブレット端末の活用に関する資料を作成し、その効果について検証し、普及を図る。

研究



研究成果物「+タブレ2.0」の検証・普及

より質の高い研修へ 研修パックの有効性を検証

より多くの先生方へ Web等への掲載等により普及

「+タブレ2.0」を活用した校内研修によって、先生がICT活用という新たな手法を手に入れ、児童生徒は学びを深めることができる。

使わないのは もったいない。

「+タブレ2.0」で、研修すれば

MIYAGI Style Ver.2,3

児童生徒のタブレット活用ができるようになる。

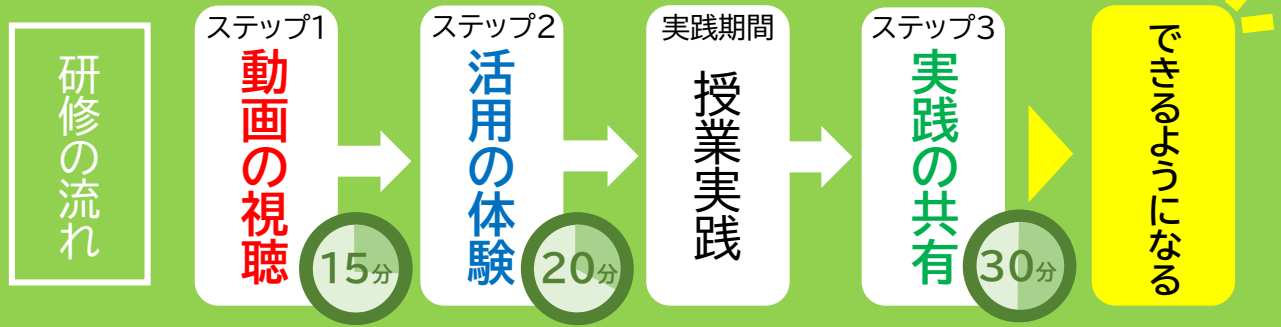
実践検証結果

96.9%の先生が児童生徒がタブレット端末を活用した授業がイメージできると実感！（研究協力校アンケートより）

こんな先生を応援！

「+タブレ2.0」は、児童生徒がタブレット端末を活用する協働学習・個別学習について「イメージして」「体験して」「できるようになる」ための研修パックです。教師がタブレット端末を活用する一斉学習からステップアップして「児童生徒がタブレット端末を活用する授業がしたい」「校内研修会を開きたい」という先生方を応援します。

「+タブレ2.0」なら3ステップで活用できるようになる！



こんな研修ができる

- ✓ICTの整備状況や活用状況に合わせた研修を構成することができます！
- ✓最短構成の研修ならステップ2(20分)だけでも研修することができます！
- ✓研修用動画と研修会資料の活用で個人でも研修することができます！

